

〔芸術学部 芸術学科〕

総合領域
イラストレーション領域
美術領域
情報デザイン領域
空間デザイン領域
地域実践領域



携帯・スマートフォンの方は
こちらのQRコードから
アクセスしてください。

〔美術領域 制作メンバー〕

デザイン：佐藤大介(sato design./印刷クラス卒業生)
写真：澤田真(赤坂)、増田好郎(p.04, 06, 08)
イラスト：山内康貴
編集：西川有紀「モーラ」
印刷：大伴社
発行：成安造形大学 入学広報センター
発行日：2020年4月1日
〒520-0248 滋賀県大津市御水の里東 4-3-1
Tel: 077 574 2119 Fax: 077 574 2120
E-mail: nyushi@seian.ac.jp URL: www.seian.ac.jp

本書からの無断転載を禁じます。
また、掲載内容は、2020年度3月現在のものであり、一部変更される場合があります。
なお、最新情報については本学Webサイトをご覧ください。

OPEN CAMPUS 2020

1st 6/7〔日〕 2st 7/26〔日〕

〔ACCESS〕

京都から20分

JR湖西線普通

JR

大阪から46分

JR京都線新快速・JR湖西線普通

JR

神戸から65分

JR神戸線新快速・JR京都線新快速・JR湖西線普通

JR

駅前からは無料のスクールバスで約3分

【 】

成安造形大学

美術領域

日本画コース / 洋画コース / 現代アートコース

FINE ARTS DEPARTMENT

JAPANESE-STYLE PAINTING COURSE / PAINTING COURSE / CONTEMPORARY ART COURSE

成安造形大学
大学案内2021

SEIAN UNIVERSITY OF
ART AND DESIGN
GUIDE BOOK 2021



美術領域ってどんなところ??

美術領域では「描くこと」と「つくること」の基礎を1年次にしっかり学び、2年次より日本画コース・洋画コース・現代アートコースの3つのコースを選択します。アトリエのような個人ブース、少人数制のマンツーマン指導といった充実した制作環境の中で、思いっきり作品を制作してください。さらに作品を作るだけでなく、「なぜつくるのか?」「何を伝えたいのか?」を考えることで、幅広い世界との関わりと多様な価値観を学びます。

美術領域 学びの流れ

1 年次 →

「描く」「つくる」「考える」
3つのキーワードから、
基礎を学び、視野を広げる。

◎ 描く

素描・絵画基礎



日本画基礎



洋画基礎



◎ つくる

立体造形基礎



技法演習



◎ 考える

現代アート基礎



2 年次 | コース選択 →

「日本画」「洋画」「現代アート」各コースに分かれ、
専門分野の「技法」「素材」「方法論」を学ぶ。

◎ 共通授業

古美術研究



ゲスト講演会



◎ 日本画コース

Japanese-style Painting

岩絵の具や膠(にかわ)、
和紙などの素材、そして動
物や植物、風景といった
様々な「自然」と向き合うこ
とで、自分自身と対話をする。

- 植物表現
- 静物表現
- 動物表現
- 材料・技法研究
- 模写



◎ 洋画コース

Painting

「視ること」と「描くこと」から
出発し、自由で独創的な表
現を獲得する。自分と社会
の関係を、絵画を起点に
見つめ直す。

- 古典技法
- 静物表現
- 人体表現
- ドローイング研究
- 材料・技法研究



◎ 現代アートコース

Contemporary Art

絵画や彫刻といった既存
の枠組みにとらわれず、
自分ならではの新しい表
現を自由に探求し、挑戦
する。

- 平面・立体表現
- 写真・映像表現
- 現代アート研究
- アーティスト研究
- 素材研究



3 年次 →

専門性を学び、社会と自分の関係を考え、独創性のある表現を目指す。
自分ならではのテーマを発見・発展していく。

研究発表



制作展



- 人物表現
- 風景表現
- 素材研究
- 作家研究
- グループ展
- テーマ制作



- 版画制作
- 方法論の展開
- 作家研究
- 研究計画の立案
- グループ展
- 自主制作



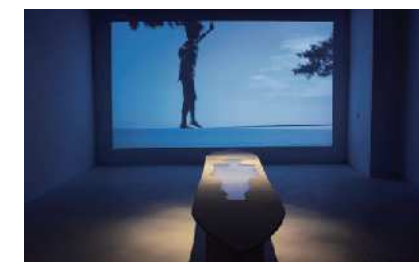
- ポートフォリオ制作
- パフォーマンス表現
- クロスジャンル
- 学内個展
- グループ展
- 自主制作



4 年次

「なぜつくるのか?」
「何を伝えたいのか?」
問いを通して、自分の表現を獲得する。

卒業研究



日本画コース

岩絵の具、膠(にかわ)、和紙、金銀箔など日本画独自の画材や

伝統的な技法・画法を使いこなすことで生まれる豊かな表現が日本画の魅力です。

成安造形大学日本画コースでは、写生から本画制作までのプロセスや日本画材の扱い方について

初歩から学んだのち、石を砕いての絵具作り、古典絵画の模写、美術館や神社めぐり、

そして滋賀県という恵まれた自然環境の中での風景写生など、歴史、素材、技法…

さまざまなアプローチで日本画を研究します。植物や動物、人、風景などの自然とじっくり向き合い、自由で個性的な絵画世界を創造する力を育みます。



2年生日本画実習

2年生では写生を重視した樹木制作から始まり、静物・動物制作を行います。下絵や草稿から実際の作品制作までのプロセスを体験するなかで、日本画材についての基本的な知識や扱い方を身につけます。



支持体研究(絹本による制作)

日本画の材料は1000年以上続いている伝統的な素材であり、中でも絹は重要な材料の内の1つです。絹目を利用した裏彩色など様々な表現が可能です。数多くの専門的な画材に触れることで、日本画への理解をより深めることができます。

Studio



日本画コースのアトリエは一人当たりには十分な制作スペースが確保され、100号以上の大きな作品も床に寝かせて制作することができます。

また、大学周辺の環境は、豊かな自然や琵琶湖の眺望など制作のための画題に溢れています。

滋賀県には寺社仏閣など歴史的な遺産も多く存在し、伝統的表現の研究対象には事欠きません。

古典から現代まで多くの作品を鑑賞し、自分の表現を探究することができます。

Work



- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 4 | 5 |
| 3 | | | |
- 1 | 若吉李恵《鯨がいる街》麻紙・岩絵具
2 | 湯浅泰将《夏の蓮池》麻紙・水干絵具・岩絵具
3 | 上野モモ《いわし2》麻紙・水干絵具・岩絵具
4 | 今岡一穂《墓の葉伝説 二度の子別れ(部分)》雲肌麻紙・墨・鉛筆・水干絵具・岩絵具・金泥
5 | 千坂尚義《桜に山鳥羽》麻紙・水干絵具・岩絵具

Pick up! Interview NOISHIKI Yumi



野一色優美
日本画コース・4年生
大阪府立池南造形高等学校卒業

◎略歴
1999年 大阪府大阪市生まれ
2017年 成安造形大学美術領域入学
◎主な展覧会など
2018年「第4回右本正日本画大賞展」
(浜田市立石正美術館/島根)
2019年「第5回右本正日本画大賞展」
(浜田市立石正美術館/島根)
「第4回京都学生アートオークション」
(京都芸術センター/京都)
2020年「第2回、3回AGHAPCオークション」
(アークヒルズスクラップthe club room/東京)

Q1 なぜ日本画コースを選んだのですか？

日本画の箔や岩絵具といった画材の魅力や制作プロセスに興味があったため、日本画コースを選びました。

Q2 現在日本画コースではどんなことを学んでいますか？

日本画制作のプロセスで重要な写生はもちろん、モチーフと余白の関係といった画面内の構成についてや、画材の扱い方等を日々勉強しています。

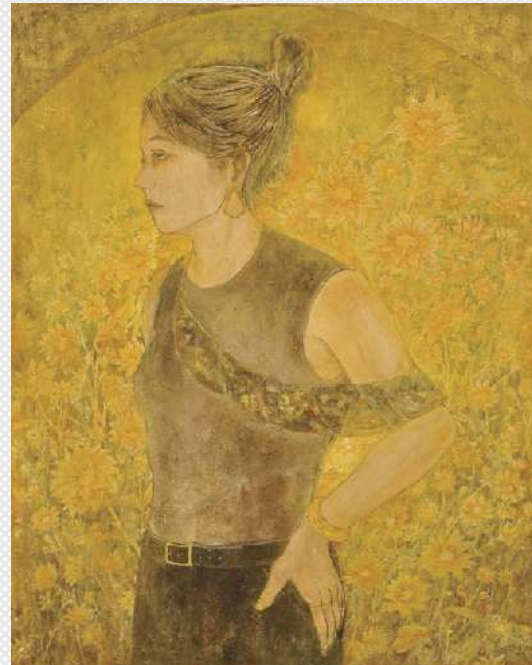
Q3 授業や制作、また大学生活で印象に残った出来事を教えてください。
3年生の頃に「第4回京都学生アートオークション」に出品したことです。これはオークションなので作品を売ることがメインの展示でした。「作品を売って利益を得る」という考えは、それまでの私には無かった経験であり、作家としてのより実践的な学びと同時に、自身の活動範囲が広がったような印象のある出来事でした。

Q4 作品制作において気をつけていることを教えてください。

最近は作品の一人語りにならないように気を付けています。描き進めているイメージが膨らみ過ぎて、鑑賞者に伝わるラインを通り越してしまうときがあります。なので、鑑賞者に伝わるギリギリのラインを探ることを念頭に置いて制作しています。

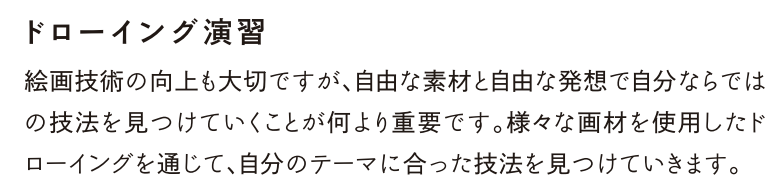
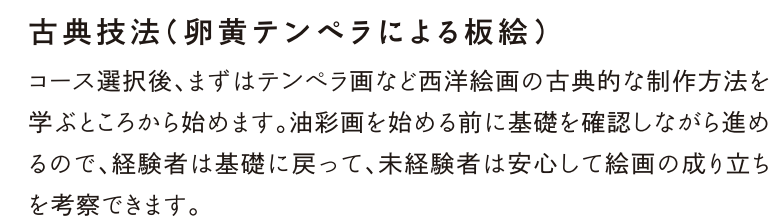
Q5 卒業後どのような進路に進みたいですか？

進学を考えています。今はまだ作品と向き合う時間が必要と感じているので、より多くの作品を描き、作家としてのキャリアを積み上げていきたいです。



輝き(かがやき)
麻布・真鍮箔・岩絵具
縦1000mm×横803mm(F40号)

まずは描くことから出発し、「なぜ描くのか」「なにを表現したいのか」をしっかりと考え、結果として自分なりのテーマを発見・探求することをなによりも大切にします。そして自分だけの表現方法を獲得していく喜びが、本コースの魅力です。徹底した個人指導により、作品を社会に発信していく力を養います。

A young woman with dark hair and glasses, wearing a dark blue turtleneck sweater, is sitting and smiling. She is in an art studio, with several large paintings of nature scenes (trees and foliage) visible in the background. The lighting is warm and natural.

Work

A portrait of a young woman with short brown hair, smiling warmly. She is wearing a light-colored, textured sweater. The background is a blurred library with bookshelves filled with books.

◎略歴
1994年 滋賀県守山市生まれ
2018年 成安造形大学美術領域洋画コース卒業

◎主な展覧会
2019年「邂逅展」(風の門ギャラリー/滋賀)

◎主な受賞
2015年「2015京展」入選
2016年「第20回展展」メーカー賞
2017年「2016京展」入選
2018年「第4回似顔絵さんぶら座杯」新人賞

Q3 現在所属している会社と仕事内容を教えてください

現在所属しているのは、ゲームソフト制作・開発会社です。そこでエフェクトデザイナーとして働いています。ゲーム内で使用する風や雪などの自然現象、攻撃や魔法といった特殊表現など、ゲームの世界観に合った視覚効果や演出を制作しています。様々なソフトを駆使して、2Dテクスチャ作成や3DCGでのモデリング、アニメーション作成など、多岐にわたるデータの作成に携わっています。

A person with long dark hair, wearing a grey patterned sweater, is seated at a desk, viewed from the side. They are using a computer with four monitors. The monitors display various astronomical images: the leftmost shows a dark, textured surface; the second shows a bright, glowing nebula; the third shows a blue, glowing nebula; and the rightmost shows a large, blue, glowing nebula. The person's hands are on a black keyboard and a black mouse. A black pen lies on the desk. The background is a plain wall.

07

現代アートコース

現代アートコースは、絵画や彫刻といった既存の枠組みにとどまらない、

自分ならではの表現を自由に探究します。2年次は、現代アートの歴史や作家を研究する授業にはじまり、

木工や鉄工、レーザーカッターや3Dプリンタなど多様な素材やツールを活用した立体表現に挑戦します。

また、カメラを活用した写真・映像表現も体験して表現の幅を広げます。

3年次では、学生主体で展覧会を開催するなど実践的な活動を通して、

“場”の特殊性から発想する「サイトスペシフィック・アート」や“身体”を使った「パフォーマンス・アート」に挑戦します。

4年次は、卒業研究として各自が自由にテーマ設定して自分ならではの表現に取り組み、それを社会に発信します。



立体基礎(造形ラボで木工実習)

現代アートコースでは、あらゆる素材や技法を駆使して自分ならではの表現を目指します。立体基礎では、木工に特化した造形ラボ、金属加工に特化した鉄工ラボ、3Dプリンタやレーザーカッターに特化した教室(fabco)など、学内の様々な施設を活用します。



平面基礎(写真スタジオでの撮影実習)

現代アートコースの平面基礎は描くだけではありません。撮影スタジオを使ってデジタル一眼レフカメラの撮影技術を学びます。課題制作では、オリジナルフォトブックの制作、パフォーマンスやインスタレーションのドキュメント映像の制作などにも取り組みます。

Studio



現代アートコースの制作環境は、教室だけではなくありません。大きな立体作品を作りたいければ屋外や造形ラボ、鉄工ラボなど学内の様々な施設を活用したり、パフォーマンスやインスタレーションは学内外のギャラリーを使って表現したり、アート・プロジェクトの場合は地域に飛び出して活動したり、やりたいことに応じて制作環境を拡張させます。このような制作環境が実現しているのは美術領域の「みんなでみんなを育てよう」という考えによって支えられています。

Work



- 1 | 宮崎こころ《証拠》ミクストメディア
- 2 | ゆりかき 個展「心の扉 -Open My Heart to the World-」展示風景
マルチチャンネルビデオ
- 3 | 菊池和晃《愛の神様》ミクストメディア・パフォーマンス
- 4 | ウェダズカ 個展「コンプレックスはアートなり」展示風景
- 5 | 中村早希《グーテン添い寝セット》布・綿・ウレタンフォーム・アイロン転写シート
- 6 | 林宗将《東西-Asura》石粉粘土・樹脂・鉄

Pick up! Interview KIRA Kanako



吉良 加奈子
アーティスト
愛媛県立宇和島南中等教育学校

◎略歴
1996年 愛媛県宇和島市生まれ
2019年 成安造形大学美術領域現代アートコース卒業
◎主な展覧会歴など
2017年「京都・Re-Search in 京田辺」(参加)
個展「運民を洗濯する」(KUNST ARZT/京都)
2019年 個展「旅する犬」(Roots Routes Travelers)
「セイアン・アーツ・アソシエーション12 Roots Routes Travelers」
(成安造形大学「キャンパスが美術館」/滋賀)

Q1 成安造形大学現代アートコースではどのようなことを学びましたか？
アートの歴史を学んだり、好きな作家を研究したり、様々な素材に触れたり、共同制作を行ったりと、アーティストとして活躍されている先生方のもとで多くのことを学びました。特に3年次の学内で個展を開催する「リレー個展」という授業では、作品を構想するところから、DMデザイン、記録写真の撮影まで展覧会を行うにあたってのすべてのプロセスを実践でき、卒業後の今でもとても役に立っています。

Q2 授業や制作、また大学生活で印象に残った出来事を教えてください
学外のアーティスト・イン・レジデンスへ参加したり、友人たちと海外へ芸術祭を見に行ったり、商店街を舞台にアートイベントを企画したりと本当にいろいろな経験をすることができました。でも今思うと、友達と作品についてあだこうだと喋っている時間が一番楽しく、今の自身の考えを形成する上で大事な時間だったように思います。卒業後も気兼ねなく連絡を取り合える仲間を持てたことがなにより良かったです。

Q3 現在はどのような作品を制作していますか？
古道具屋で手に入れた給食トレーの裏に描かれていた犬の落書きを、石に刻んで街中へ放ち、それをInstagramで投稿する「旅する犬」というプロジェクト型の作品を大学4年次に個展で発表し、今も継続して行っています。他には、川で釣りをしているおじさん、しっぽを振る猫、揺れるカーテンなどたまにま出会った場面をスマホで1分間撮影し、それ

ぞれが異なる速さで同じ時を過ごしていることについて考えた「この星のピッチ」という新作の映像作品を作ったりしています。生活している中で気になったものをとるあえず写真や動画、メモに残し、作品へ発展させることが多いです。

Q4 これから芸術大学を目指す受験生にメッセージをお願いします。

私は高校までのどかな田舎町で育ち、周りに美術館やギャラリーはありませんでしたが、大学に入ってからアートに触れる機会が増え、視野がぐっと広がりました。それから大好きな人たちがたくさんできました。芸術大学は、これからの人生でやりたいことや没頭できるもの、信じていきたいことに会える場所だと思います。合格目指して、自分を信じて頑張ってください。応援しています。



旅する犬
2019年 | インスタレーション | サイズ可変

表現するには、 自由と広さが必要だ！

美術領域という名前から、きみはどんな学びを想像するだろう。
美術の定義はいろいろあるけれど、その捉え方は人それぞれであるように、ここで学べる領域は自由で、そして広い。
「描く」、「つくる」、「考える」。この3つを軸に自由に学びながら、広い視野を身につけ、
自分にはできない表現と出会う、冒険のようなワクワクする日々が待っている。



作家

自分の表現を突き詰める

芸術作品を制作・発表しながら生きていくことを選択し、自身の芸術活動を生活の中心に考える人たちがです。「自分の考えていることを表現したい」という欲求と、作品をつくり続けるための発想力や粘り強さが必要です。



●三宅 俊彦 アーティスト

ベルリン在住。2010年アルミホールを用いた彫刻、約300体を配置したインスタレーション作品にて岡本太郎現代芸術賞展岡本太郎賞受賞。彫刻(現:現代アート) 2004年卒



●今岡 一穂 日本画家

Seed山種美術館 日本画アワード2016入選、堂島リバーアワード2016入選。2017年に個展を銀座と京都で開催する他、多数のグループ展に出品。日本画 2015年卒



●小川 直樹 美術作家

横浜ジャパン日本興亜美術賞 FACE2016 審査員特別賞・オーディエンス賞、シェル美術賞2016 グランプリ。洋画 2007年卒 2008年研究生修了



●山本 雄教 美術作家

2014年TERRADA ART AWARD優秀賞、2017年第7回トリエンナーレ豊橋 星野真吾賞展審査員推奨、フインアート・ユニバーシアード U-35優秀賞。日本画 2010年卒 2011年研究生修了

●みやじけいこ

VOCAL展2000奨励賞受賞 2012年 大津市文化奨励賞受賞 洋画 1999年卒 2000年研究生修了

●瀧 弘子

平成26年度咲くやこの花賞受賞 構想表現(現:現代アート) 2012年卒

●三宅 佑紀

2017年 第10回岡山県新進美術家育成「1氏賞」選出 洋画 2016年卒 2017年研究生修了

●藤井 俊治

成安造形大学勤務 シェル美術賞2004グランプリ VOCAL展2018奨励賞受賞 洋画 2006年卒 2007年研究生修了

●ペリーマキコ

2012年 第4回京都日本画新展大賞受賞 日本画 1998年卒 1999年研究生修了

●多羅 信綱

京展2008年京展賞受賞 第61回西宮市展大谷記念美術館賞受賞 彫刻(現:現代アート) 2008年卒

●北川 安希子

2011年 京都日本画新展大賞受賞 2019年 京都府新鋭選抜展京都新聞社賞 日本画 2006年卒

●福田 真知

2019年 京都府新鋭選抜展 日本経済新聞社京都支社賞 彫刻(現:現代アート) 2006年卒

もっと！
もっと作りたい！



フリーランス

出来ることを仕事にする

会社や団体などに所属せず、仕事に応じて自由に契約する人のことです。独自の世界観を武器に書籍や雑誌、Webなどにイラストを提供することはもちろん、デザイン力や造形力を生かして社会で活躍する場をつくれます。



●walnut イラストレーター

卒業後、イラストレーションクラス研究生として1年間在籍。その後フリーランスのイラストレーターとして活動する。木村カエラ10周年記念LIVEのグッズデザインを手掛けるほか、世界各国のミュージシャンのグッズデザインを担当するなど幅広く活躍中。洋画 2011年卒



●はしもとともこ ぬいぐるみ作家

株式会社光スタジオ取締役 奈良芸術短期大学非常勤講師 作品の一部に手織の布を使用し、ぬいぐるみを制作。展覧会の他、フランスのメルスリーを扱うlavenderboxとコラボレーションのぬいぐるみの制作、メモリアルジュエリーブランド京都絆屋のキャラクターの制作等を行う。彫刻(現:現代アート) 2010年卒



●有村 綾 イラストレーター

地元神戸で活動しているため、神戸市役所の広報イラストや、民間企業との神戸グッズ制作多数。その他、雑誌の挿絵やキャラクター制作などを手掛ける。著書に「ボールペンでイラスト なぞってかんたんスタートBOOK」(主婦の友社)がある。洋画 2002年卒

何が必要とされているだろう？



●たなかみのる

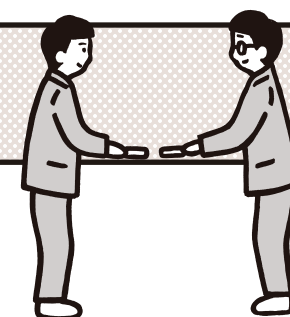
グラフィックデザイナー／編集家 「ハラボラ舎」代表 彫刻(現:現代アート) 2007年卒

●小博良 誠毅

アクセサリーデザイナー 洋画 2005年卒

企業

どうも、美術を
学んでました。



学んだことを社会で生かす

文化財の修復、舞台美術、アニメーション、ゲーム業界はもちろん、美術領域で培った創造力や表現力、コミュニケーション力は一般企業が求めるサービスやイノベーションでも活かれます。



●箭木 康一郎 有限会社墨仙堂

有限会社墨仙堂にて東洋書画(文化財)の保存修復・表装に携わる。日本画 2002年卒



●田代 詩奈 株式会社つむら工芸

株式会社つむら工芸でオペラやミュージカルの美術製作に携わる。日本画 2016年卒



●野村 沙羅 ボノス株式会社

誰でも手軽簡単にできるにゃんこ育成スマホゲーム「にゃんこ大戦争」にアートディレクターとして携わる。洋画 2011年卒

●鈴木 梨華

香老舗 薫玉堂 日本画 2011年卒

●福水 美咲

有限会社こーま 日本画 2014年卒

●長谷 百香

京都アニメーション 日本画 2011年卒

●川那辺 菜波

イトキン株式会社 日本画 2014年卒

●紺野 大樹

有限会社シャフト 日本画 2012年卒

●垣内 真央

株式会社アミグ 現代アート 2017年卒

●重内 美紀

株式会社セブンイレブン・ジャパン 洋画 2013年卒

●宮地 珠音

株式会社カブコン 洋画 2019年卒

●宮武 昌之

京都たつた舞台株式会社 構想表現(現:現代アート) 2013年卒

●西井 香織

株式会社ディンプス 洋画 2018年卒

●石川 佳奈

兵庫信用金庫 洋画 2014年卒

●丸尾 琴美

たねやグループ 洋画 2019年卒

進学・留学

新しい価値観を発見する

進学・留学で知識や技術をより深めることもできます。作家やアートに関わる仕事に就きたい人にとって、夢に近づく大きな一歩になるはずです。



●岩名 泰岳 画家

2010-12年 ドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミー研究生として留学。2013年三重県伊賀市にて島ヶ原村民芸術「蜜の木」結成。2015年MA2gallery(東京)にて個展。その他展覧会多数。

●岸本 祥太

広島市立大学 芸術学研究科 造形芸術専攻 絵画研究 日本画A研究室 日本画 2017年卒

●増田 可南

京都市立芸術大学大学院 美術研究科 絵画専攻 日本画 日本画 2017年卒

●菊池 和晃

京都市立芸術大学大学院 美術研究科 絵画専攻 構造設計 現代アート 2016年卒

●林 宗将

京都市立芸術大学大学院 彫刻専攻 現代アート 2015年卒

●竹村 花菜

筑波大学 博士前期課程芸術専攻 日本画領域 日本画 2019年卒

●小西 英佑

公立大学法人長岡造形大学 修士課程 造形研究科造形専攻 美術工芸デザイン 洋画 2017年卒

もっと広い世界を
見に行こう。



教員

スタートは教育から

成安造形大学では希望者の多くが教員免許状を取得、その内の約3割が教育職員として就職しています。



●佐竹 誠 高等学校講師 洋画 2013年卒

美術とは
なんだと
思いますか？



文化施設・美術団体／NPO

文化・表現を伝える

美術館やNPO法人などに所属し、作家の活動を支える仕事です。つくることの苦しさを体験しているからこそ、作家の気持ちに寄り添えます。



●横井 悠

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA 学芸員 構想表現(現:現代アート) 2009年卒 社会福祉法人グロー(GLOW) 法人本部 企画事業部に勤務。

こんな作品も
あるんですよ。

●瓜生 祐子

公益財団法人 京都市芸術文化協会職員 画家 洋画 2005年卒 2006年研究生修了

●内田弓葉

京都市社会福祉協議会 児童厚生員 洋画 2020年卒



教員紹介

大野 俊明

OHNO Toshiaki

客員教授

日本画家

成安造形大学名誉教授

京都日本画家協会会員

◎略歴

1948年京都市に生まれる。京都市立芸術大学美術学部卒業。1972年に京都・二条城の障壁画模写事業に参加し、現在にわたって模写に携わっている。1987年の第九回山種美術館賞展優秀賞、1991年のタカシマヤ文化基金第一回新鋭作家奨励賞などを受賞した他、「横の会」の結成に参加。「日本画・京都からの表現 NEXT」展でも活躍。障壁画制作としては、1994年完成の安土町「信長の館」天守閣内障壁画の復元も担当。2017年京都市芸術振興賞を受賞。



Q1 画家としていつも気にかけていることがあれば教えて下さい。

画家として気がかりなのは、良い画材が年々なくなっていくことへの危機です。日本画を描くために必要な紙や絵の具あるいは膠(にかわ)等の画材を作るための原材料が減少の一途です。それは多方面にわたって我々人間が自然環境を良くない方へ向かわせていることが大きく影響しています。美しい自然の風景に感動し、それを作品に描き留めるため、今後何ができるかを絵を通して提案することが創作者の使命なのかもしれません。

Q2 二条城の修復模写はどのようなお仕事ですか？

国宝・二条城の二の丸御殿には、徳川家の御用絵師であった狩野探幽を筆頭に当時の狩野一門が描いた貴重な文化財が残されています。ところが400年の歳月を経た障壁画はいたみが甚だしく、貴重な文化財を保存するため、模写をしてはめ替える計画が1972年に始まりました。総数1000面を超える障壁画を描かれた当初の状態に復元をし、順次はめ替えながら、原本を保存する方法で現在も続けられています。私も最初から参加し、48年目に入りました。

Q3 今後アートに関わる仕事を目指す受験生へメッセージをお願いします。

「作ることや描くことが何よりも好き」が一番大事なことです。アートに間違いというものはありません。自分の作りたい、あるいは進みたい方向を深く掘り下げることが大切です。それには、日本画、洋画、立体、デザイン、工芸、ファッションなど掘り下げるための「専門のスキル」が必要です。現代では今までは全く違う方法で、新たな道を掘り下げている若い人たちがたくさんいます。でもまず今は、いかなる状況になっても必ず役に立つデッサン力という深く掘るための「力」を身に付けて下さい。



「すずき野」 | 2018年 | 麻紙・岩絵具 | 112×324cm

林 寿美

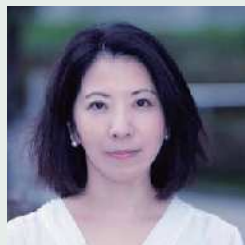
HAYASHI Sumi

客員教授

インディペンデント・キュレーター

◎略歴

国際基督教大学卒業後、DIC川村記念美術館で、ロバート・ライマン、ゲルハルト・リヒター、マーク・ロスコなどの展覧会を企画。2012年に同館を退職後、ヨコハマトリエンナーレ2014、「トラベラー まだ見ぬ地を踏むために」(国立国際美術館)ほか、内外の展覧会やプロジェクトに携わる。2019年には神戸初のアート・プロジェクト「TRANS-」のディレクターを務めた。



Q1 キュレーターやインディペンデントキュレーターとはどんなお仕事ですか？

展覧会を企画し、実現することが大きな仕事のひとつですが、そのためには、作品や作家の調査を日頃から続け、データを蓄積しておく必要があります。その上で、機会が到来したら展示のコンセプトをまとめ上げるわけです。美術館に所属している場合は、収蔵品の調査や研究、管理も非常に重要な業務になります。美術品は世界共通の遺産ですから、自覚と責任を持って作品に関わり、ひとりでも多くの方々にその素晴らしさを伝えるのが役目です。

Q2 これまで関わった仕事で一番印象に残った仕事を教えて下さい。

川村記念美術館(現・DIC川村記念美術館)で2004年に開催した「ロバート・ライマン 至福の絵画」展です。1990年代にスイスのシャフハウゼン現代美術館で見たライマン・コレクションの展示に深く感銘を受け、その感動を誰かと共有したいという思いから企画しました。ライマン氏本人も大変穏やかに優しく溢れる方でしたし、美術館の展示室内で作品の配置と一緒に考えることができたのはまさに至福のひとつでした。

Q3 今後アートに関わる仕事を目指す受験生へメッセージをお願いします。

美術に対する好奇心と情熱を忘れないでください。そして、広い視野と深い洞察力を持ち続けること。もしも道半ばで困難や失敗に遭遇しても、それを乗り越える苦勞を楽しめるように。



グレゴール・シュナイダー (美術館の終路-12の進行系) | ©2019 TRANS-KOBE実行委員会 Photo: Nobutada Omate



やなぎみわ「日輪の翼」神戸公演より (神戸市中央卸売市場本場内特設会場) | ©2019 TRANS-KOBE実行委員会 Photo: Nobutada Omate

岡田 修二

OKADA Shuji

教授 / 画家

自宅近くの琵琶湖畔の湿地帯を描いた油彩画(水辺シリーズ)を展開。滋賀県立近代美術館、大原美術館にて大規模な個展を開催。セゾン現代美術館にて2人展。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ客員フェロー。京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程修了。



《水辺73》 | 2015年 | キャンバス・油彩 | 1174×243cm

宇野 君平

UNO Kumpei

准教授 / 美術家

鉄と向き合うときの身体的な感覚と、鉄を通して見えてくる概念的な世界、その間で表現を探索。近年はプラントン・花粉・微化石など小さな生命をモデルに巨大な鉄の彫刻に取り組む。筑波大学大学院修士課程芸術研究科デザイン専攻総合造形分野修了。



《パンタネリウム》 | 2018年 | 南相馬市博物館での展示風景

泊 博雅

TOMARI Hiromasa

教授 / メディアアーティスト

アーティスト・グループ〈ダムタイプ〉で、パフォーマンスやインスタレーション作品を制作。アーティストの立場からメディア表現について探る。共著「メディアアートの教科書」(フィルムアート社)。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画(造形構想)専攻修士課程修了。



dumb type (Voyages) | 2002年 | メディア・インスタレーション

高田 学

TAKADA Manabu

准教授 / 日本画家

身近な自然の中に普遍的な造形を探索し、岩絵具を通して表現。京展市長賞・京展賞、創画展奨励賞・春季展賞、京都日本画家協会 奨励賞、滋賀県文化奨励賞など受賞。成安造形大学日本画クラス研究生修了。



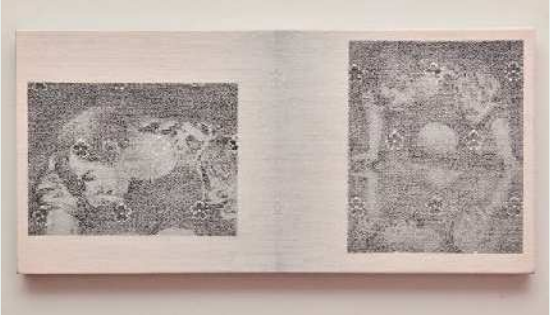
《残照》部分 | 2013年 | 岩絵具・麻紙・金箔 | 181×227cm

長尾 浩幸

NAGAO Hiroyuki

教授 / 美術家

絵画、版画制作。ほかに版画、写真、映像を組み合わせたインスタレーションを制作。美術鑑賞や絵画と映像性の関係について研究。美術館、個展などで発表し、自ら展覧会の企画・運営も行う。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。



《書物の化身-1》 | 2019年 | 麻・アクリル・グラフィット・ステンシル | 26×55cm

馬場 晋作

BABA Shinsaku

准教授 / 美術家

社会や他者との関係で揺らぎ曖昧なものとして現れる個人やその視点に着目。絵画の方法論から出発しながら様々なメディアを介し作品展開する。展覧会企画、プロジェクト運営、フィールドワークなど幅広く活動。京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程修了。



《交錯と転換のドローイング》 | 2018年 | ミクストメディア | サイズ可変 | 撮影: 奥村元洋

非常勤講師紹介

井手本 貴子

IDEMOTO Takako

日本画家

《あの子》部分
2018年 | 麻紙・岩絵具・膠等
33.3×24.2cm



今村 源

IMAMURA Hajime

美術家

《Shizubi Project 3
"おた死としてのキノコ"》
2013年 | 展示風景 | 静岡市美術館



岡本 里栄

OKAMOTO Rie

画家

《ivy》部分
2018年 | ユーグ紙・水性アルキド樹脂絵具
41×31.8cm



中川 トラヲ

NAKAGAWA Torawo

絵画・現代美術作家

見玉画廊でのインスタレーションビュー
2014年 | ウッド・パネル・アクリル絵具
サイズ可変



林 勇気

HAYASHI Yuki

映像作家・美術家

《another world -alternative-》
2017年 | 静岡市美術館での展示
撮影: 本長豊三



松村 晃泰

MATSUMURA Teruyasu

彫刻家

《la esencia de la vida》
2014年 | 大理石
130×200×90cm



井上 裕加里

INOUE Yukari

美術家

《罪の意識》
2017年 | video Installation 1017"
サイズ可変 | 撮影: 栗田田井香



植松 琢磨

UEMATSU Takuma

美術家

《noosphere-platform》
2014年 | 導磁石・ケープルタイ・木



国谷 隆志

KUNITANI Takashi

彫刻家

《Spaceless Spaces
(Deep Projection)》
2015年 | 息・ガラス・ネオン・変圧器・コード
サイズ可変



西久松 吉雄

NISHIHISAMATSU Yoshio

日本画家

《古地図》部分
2017年 | 麻紙・岩絵具・金箔
130.3×162cm



福田 浩之

FUKUDA Hiroyuki

日本画家

《遺棄》
2014年 | 板材・漆木・岩絵具
364×273cm

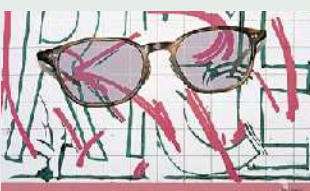


安河内 宏法

YASUKOCHI Hironori

キュレーター

展覧会企画
《肉とクッキー 満洲参賞・特南啓佑 二人展》
京都芸術センター
2018年 | 展覧会フライヤー(部分)



伊庭 靖子

IBA Yasuko

画家

《untitled2017-03》部分
2017年 | キャンバス・油彩
97×130cm



岡本 光博

OKAMOTO Mitsuhiro

美術家

《w#120 トラロープ》
2009年 | 三千院での展示



小柳 裕

KOYANAGI Yutaka

美術家

《Ambush (Source of Light 15-6)》部分
2015年 | キャンバス・油彩
60.7×72.8cm



林 孝二

HAYASHI Koji

日本画家

《Landscape》部分
2010年 | 麻紙・アルミ箔・墨・焼白漆・膠
194×540cm



増田 佳江

MASUDA Kae

画家

《読書的な言葉》部分
2018年 | キャンバス・油彩
130×162cm



森 太三

MORI Taizo

美術家

《転写と転写》 | 2016年
木材・漆料 | Gallery PARCでの展示風景
撮影: 栗田田井香

